

誰が、何をすればいい？

- ①**漁協**：川の上流域に禁漁区やキャッチ&リリース（以下、C&R）区*¹を設置して、魚を増やす（P 5-7参照）。
- ②**漁協、釣り人**：釣獲日誌で漁場の状態を知る（P 8、9参照）。
- ③**漁協、釣り人、地域住民**：川の巡回や看板設置で漁場を見守る（P 10参照）。
- ④**漁協、釣り人、地域住民**：魚類の生息環境を改善して川や魚を守る（P 11参照）。

*¹ キャッチ&リリース区とは、釣った魚は全て生かしたまま同じ場所に放さなければならない区間のこと



図3 本パンフレットで紹介する漁場管理の仕組み

それぞれの役割を順に見ていこう！ 次ページへ

①川の上流域に禁漁区やC&R区を設置して魚を増やす

魚を残して増やすC&R区

あが つま
～群馬県吾妻漁協と栃木県おじか・きぬ漁協の例～

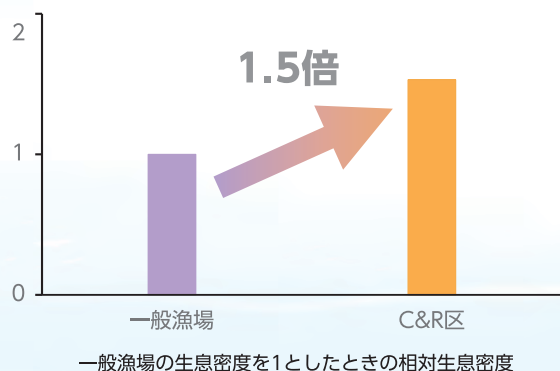


図4 C&R区間と一般漁場での魚類の生息密度

- 群馬県のC&R区間では、同じ河川内の一般漁場*²と比べて魚の生息密度が1.5倍程度となりました(図4)。

*² 体長・尾制限の範囲内で、魚の持ち帰りが可能な釣り場

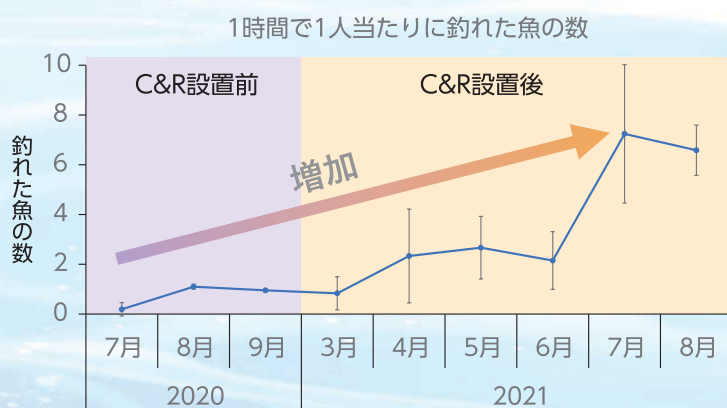


図5 C&R区設置前後の釣れ具合の変化

- 栃木県男鹿川の支流では、C&R区を設置したところ釣れた魚の数が増加しました(図5)。



図6 一般漁場とC&R区で期待される産卵数

- この区間での産卵数は、一般漁場の10倍以上と推定され、C&R区には魚を増やす効果があると考えられました(図6)。

放流に頼らず魚を増やす

い と し ろ う え の む ら
～岐阜県石徹白漁協と群馬県上野村漁協の例～

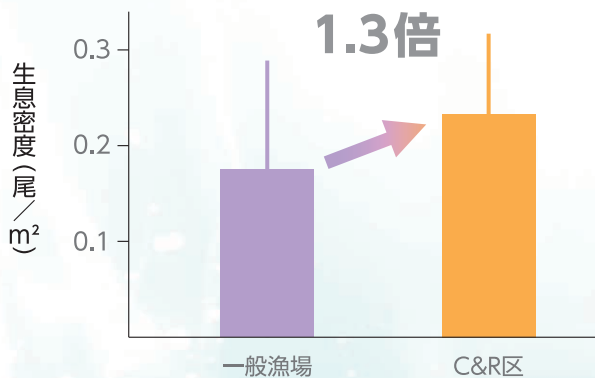


図7 石徹白漁協管内の川における渓流魚の生息密度

- 岐阜県峠川では、自然繁殖のみでC&R区間を管理しています。放流が行われる一般漁場よりも魚の生息密度が高く、**野生魚**が釣れる川として人気です(図7)。

- 群馬県中ノ沢のC&R区では、人数制限と自然繁殖による管理をしています。放流が行われるC&R区(本谷)と同程度の釣れ具合となりました。



川の上流域は魚の供給源

- 長野県では、支流から渓流魚の稚魚や成魚が下流の漁場へと移動して資源となること(**しみ出し効果**)が複数の川で確認されました(図8)。



図8 ガキ沢における幼魚・成魚のしみ出し



写真 ナガレモンイワナ

- 滋賀県の川では、遺伝的に特殊な模様を持つナガレモンイワナ（左写真）が上流域から下流域へとしみ出していることがわかりました。

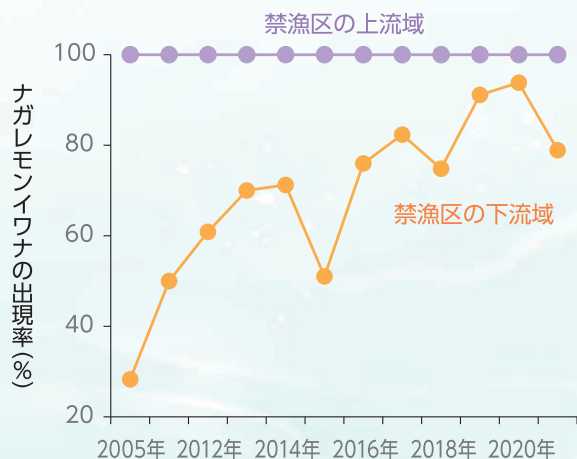


図9 ナガレモンイワナの出現率の変化

- 下流域では、ナガレモンイワナの割合が増加していました。これは上流域からしみ出した魚が、**下流域の資源造成**に貢献したためと考えられます（図9）。

まとめ

川の上流域に禁漁区やC&R区を設置すると

① 禁漁区やC&R区で魚が増える*3

② 増えた魚が下流域へ供給される

→ **漁場全体**で魚が増えることが期待できます。

*3 禁漁区でもC&R区と同様に増殖効果やしみ出し効果が明らかとなっています。また、自然繁殖を活用した漁場づくりについては、繁殖の可能な環境に禁漁区やC&R区を設置することや、監視や看板による規則の遵守が必要です。これらについては、令和3年に発行した「放流だけに頼らない 渓流魚を増やす漁場管理」をWebで検索するか右のQRコードからご覧ください。

〔放流だけに頼らない
渓流魚を増やす漁場管理〕

